

## 令和2年度多忙化改善計画

学校名：山梨県立中央高等学校 定時制

No.	項目	現状と課題	R3年度に目指すべき状態	① R2年度に実施する内容 ②R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	会議は水曜9・10校時の90分間で完結するようにしている。	・会議数を減らし、効率的な運営 ・紙媒体資料の削減。	① 会議に関するルールを設定し、会議所要時間を明確化する。 ② 会議内容を精選し、会議数を減らす。	
2	学校行事の負担軽減	様々な経験の乏しい生徒達に体験の機会を設け行事は増える傾向にある。	・学校行事や行事内容の精選。 ・全職員に業務の割り振り。	① 継続して成功体験を経験させていくが、内容を改善していく。 ② 令和3年度の学校行事の見直しを検討する。	
3	校内組織の見直し	いくつかの校務分掌に業務が集中しており、多忙感を生じさせている。	・勤務実態を考慮した配置教員の増加を要望する。 ・県教委人事との折衝（管理職）。	① 効率的な学校運営のため、校内組織の見直しをおこない、効率化する。 ② 適切な勤務体系に対応した人員配置を見当する。 管理職による人事の適正配置の具申継続。	
4	業務の効率化	統計処理や報告などの文書作成が多く、負担となっている。	・システムの効率的利用の検討。 ・管理職による文書精査。 ・割り振りの適正を図る。	① 現行システムの長所・短所の見極めと検討。 ② 統計等、校内の状況に合ったものかどうか見当をし、不要なものについては教育委員会と折衝していく。	
5	部活動の負担軽減	定時制のため全日制高校ほど大会も多くないが、全国大会引率が負担。	・引率指導も含めた外部指導者の活用。	① 引率指導における役割を分担し、個人の加重労働を分散させる。 ② 高校の特色をアピールし、積極的に外部指導者の協力を仰ぐ。	
6	地域人材の活用	多様な生徒、問題を抱えている保護者への支援を教職員が行っている。	・外部支援との連携、活用。 ・SC、SSWのさらなる積極的活用。	① 特別支援コーディネーター、外部支援者との連絡調整の役割分担。 ② 外部機関との連携を積極的に管理職が先頭に立って進める。	
7	(学校独自の項目)	関係団体(定通教育研究会・振興会等)の業務の負担が大変大きい。	・定通各校での業務の分散化。 ・副校長と教頭との連携。	① 定通教育研究会6月総会・春季研究大会を取りやめた。 ② 発表を輪番制にするなどして分担する。	
8	(学校独自の項目)	3部制で教員の勤務体系がそれぞれで会議等が勤務時間外になりやすい。	・休休などの処置で対応。 ・会議等がない場合は早く帰宅するよう促す。	① 管理職が勤務時間の把握をきちんとし、勤務管理の指導助言をする。 ② 勤務の多様性に応じた会議運営や行事開催などの精査を継続していく。	